科目基礎			開講年度 令和03年度 (	2021年度) 🔠	授業科目	情報セキュリティメネジメント		
	<b>營情報</b>							
科目番号	I5010			科目区分	専門/選択	3		
授業形態		講義		単位の種別と単位数				
開設学科			2キュリティコース	対象学年	5	-		
開設期		後期	<u> </u>	週時間数	2			
教科書/教			リジナルのものを作成し配布する. 購			7001に関する文献を授業中に紹介す		
 担当教員		立川 崇之	·					
到達目標	 票							
2. 情報セ 3. 国内に	キュリティ( おける情報 <sup>・</sup>	の継続的改善 セキュリティ	・評価・対応について説明できる。 をについての具体的な方策について説明で 組織・機関とその役割について説明でに関する法律やガイドラインについて	できる。				
ルーブリ	<u> </u>							
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベル	<b>レの目安</b>	未到達レベルの目安		
評価項目1	<u> </u>		情報セキュリティリスクの分析・ 評価・対応について説明でき,対 応の優先度をつけられる.	情報セキュリティリ 評価・対応について		情報セキュリティリスクの分析・ 評価・対応について説明できない・		
評価項目2	2		情報セキュリティの継続的改善についての具体的な方策について説明でき,計画書を作成できる.	情報セキュリティの ついての具体的な方 明できる.		情報セキュリティの継続的改善についての具体的な方策について説明できない.		
評価項目3	3		国内における情報セキュリティ組織・機関とその役割について説明でき,それらを活用して情報収集ができる.	国内における情報も 織・機関とその役割 できる.		国内における情報セキュリティ組織・機関とその役割について説明できない.		
評価項目4	<b>!</b>		情報セキュリティマネジメントに 関する法律やガイドラインについ て説明でき,運用改善の方法を提 案できる.	情報セキュリティマ 関する法律やガイト て説明できる.	マネジメントに ドラインについ	情報セキュリティマネジメントに 関する法律やガイドラインについ て説明できない.		
学科の至	]達目標項	目との関	·····································					
教育方法	去等							
授業の進め	か方・方法	本授業はるため、策手順や	密性、完全性、可用性を維持し、また ISMS を規定した ISO 27001:2013 特に重要と思われる部分を抜粋した教 リスク評価などを受講者に考えてもら 事項を問う定期試験も実施する。	に基づいた授業である 対象使う予定である。	S。ISO 27001: 単に講義を行			
注意点		試験の成 の評価は おいて評 【事前・ 事前学習	価の基準・方法】 績を70%,課題を30%の割合で総合6 後学期末の評価とする.技術者が身に 価する. 事後学習】 としてシラバスに沿って資料を読んだ 授業内で取り扱った項目について,関	着けるべき専門科目で 上で,理解が難しか:	として, 上記の3 った部分を整理し	別達目標に対する達成度を試験等に		
	로마나 FZ M	【履修上 本科目は 行動を検 いただき	の注意] , 情報システムを構築する技術者では 討する科目である.卒業後に情報シス たい.	なく,運用管理や利用	用者サポートを行	こと. テう技術者の立場に置かれたときの		
授業の属		【履修上  本科目は  行動を検  いただき 	の注意] , 情報システムを構築する技術者では 討する科目である. 卒業後に情報シス たい.	なく, 運用管理や利月 テムを運用する立場(	用者サポートを行	こと. テう技術者の立場に置かれたときの D事を想定して,前向きに受講して		
授業の属	属性・履修 ブラーニ	【履修上  本科目は  行動を検  いただき 	の注意] , 情報システムを構築する技術者では 討する科目である.卒業後に情報シス たい.	なく,運用管理や利用	用者サポートを行	こと. テう技術者の立場に置かれたときの D事を想定して,前向きに受講して		
授業の属 □ アクテ	ニィブラーニ	【履修上本科目は行動を検」いただき	の注意] , 情報システムを構築する技術者では 討する科目である. 卒業後に情報シス たい.	なく, 運用管理や利月 テムを運用する立場(	用者サポートを行	こと、 テう技術者の立場に置かれたときの D事を想定して,前向きに受講して		
受業の属 〕 アクテ	ニィブラーニ	【履修上 本科目は 行動を検 いただき 以たださ	の注意] , 情報システムを構築する技術者では 討する科目である. 卒業後に情報シス たい.	なく,運用管理や利月 テムを運用する立場( 」 遠隔授業対応	用者サポートを行	こと. テう技術者の立場に置かれたときの D事を想定して,前向きに受講して		
授業の属 〕 アクテ	ニィブラーニ	【履修上は行動をだき」いただき。	の注意] , 情報システムを構築する技術者では 討する科目である. 卒業後に情報シス たい.	なく,運用管理や利月 テムを運用する立場(	用者サポートを行 こ置かれたときの でとの到達目標	こと.  「う技術者の立場に置かれたときの 「)事を想定して,前向きに受講して  「 実務経験のある教員による授業  マネジメントシステム (ISMS) を導		
受業の属 〕 アクテ	ニィブラーニ	【履修上本科目は大力動をきるとう 「大力」をきる。 「大力」をきる。 「大力」をは、 「大	の注意] , 情報システムを構築する技術者では 討する科目である. 卒業後に情報シス たい.  □ ICT 利用  授業内容 ガイダンス	はく, 運用管理や利所 テムを運用する立場( □ 遠隔授業対応 □ 遺 同 =ム (ISMS) とは こ、ガイドライン IS を	用者サポートを行 こ置かれたときの ごとの到達目標 報セキュリティ する意義を理解 MS の国際規格	ごと、 テラ技術者の立場に置かれたときの D事を想定して、前向きに受講して □ 実務経験のある教員による授 マネジメントシステム (ISMS) を導 する。 である ISO/IEC 27001 と関連事項		
受業の属 〕 アクテ	ニィブラーニ	【履修上体料目は検いただきを上の区分ング	の注意】 , 情報システムを構築する技術者では 計する科目である. 卒業後に情報シス たい.  □ ICT 利用 <u>授業内容</u> ガイダンス 情報セキュリティマネジメントシスラ ISO/IEC 27001 と関連規格、法制度	はく, 運用管理や利用 デムを運用する立場( □ 遠隔授業対応 □ 遠隔授業対応 □ 遺 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	用者サポートを行 こ置かれたときの ごとの到達目標 報セキュリティ する意義を理解 MS の国際規格 理解する. ISO/ 味を理解する.	こと.  デラ技術者の立場に置かれたときの D事を想定して,前向きに受講して      実務経験のある教員による授  マネジメントシステム (ISMS) を導する.  である ISO/IEC 27001 と関連事項 (IEC 27001 における用語の構成と		
受業の属	三ィブラーニ	【履修上は 権利動だだ分ング 週 1週 2週 3週	の注意】 , 情報システムを構築する技術者では 計する科目である. 卒業後に情報シス たい.  □ ICT 利用  授業内容  ガイダンス 情報セキュリティマネジメントシスラ  ISO/IEC 27001 と関連規格、法制度 , 用語の構成	はく, 運用管理や利所 テムを運用する立場( 遠隔授業対応	用者サポートを行 でとの到達目標 報セキュ 報セキュ 報を理解する。 関解 理解する。 内外の情報セキ	こと.  デラ技術者の立場に置かれたときの D事を想定して,前向きに受講して  実務経験のある教員による授  マネジメントシステム (ISMS) を導する. である ISO/IEC 27001 と関連事項 IEC 27001 における用語の構成と ユリティ機関とその役割を理解する 属書Aに記載されたセキュリティリ		
受業の属 フクテ 受業計画	ニィブラーニ	【履修上は 権利動だだ 区 上 の 区 ン グ 週 1 週 2 週 3 週 4 週	の注意】 , 情報システムを構築する技術者では 計する科目である. 卒業後に情報シス たい.  □ ICT 利用  授業内容  ガイダンス 情報セキュリティマネジメントシスラ  ISO/IEC 27001 と関連規格、法制度 , 用語の構成  情報セキュリティ機関	はく, 運用管理や利所 テムを運用する立場(	用者サポートを行 ごとの到達目標 報セキュ義を理解する。 MS の国際規格 理解する。ISO/ 味を理解する。 内外の情報セキ O/IEC27001附 ク管理策を理解	こと.  デラ技術者の立場に置かれたときの D事を想定して,前向きに受講して  「実務経験のある教員による授う マネジメントシステム (ISMS) を導する. である ISO/IEC 27001 と関連事項 IEC 27001 における用語の構成と ユリティ機関とその役割を理解する  属書Aに記載されたセキュリティリ する.  属書Aに記載されたセキュリティリ		
受業の属 フクテ 受業計画	三ィブラーニ	【履修目検き イング 週 1週 2週 3週 4週 5週	の注意】 , 情報システムを構築する技術者では 計する科目である. 卒業後に情報シス たい.  □ ICT 利用  授業内容  ガイダンス 情報セキュリティマネジメントシスラ  ISO/IEC 27001 と関連規格、法制度 , 用語の構成  情報セキュリティ機関  管理策I	はく, 運用管理や利所 テムを運用する立場( 遠隔授業対応 遠隔授業対応 ま、ガイドライン    IS を意	Tabyポートを行 ででしている。 でしている。 でしている。 でしている。 でいる。 でいる。 でいる。 では、 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	こと.  デラ技術者の立場に置かれたときの D事を想定して,前向きに受講して		
授業の属	三ィブラーニ	【を存む	の注意】 , 情報システムを構築する技術者では 計する科目である. 卒業後に情報シス たい.  □ ICT 利用  授業内容  ガイダンス 情報セキュリティマネジメントシスラ  ISO/IEC 27001 と関連規格、法制度 , 用語の構成  情報セキュリティ機関  管理策I  管理策I	はく, 運用管理や利所 テムを運用する立場( 遠隔授業対応 遠隔授業対応 こ、ガイドライン    ISを意 ISス ISス ISス	Tabyポートを行 で置かれたときで でとの到達目標 報せる意の国際と理解 サインのの国際を理解 がある。 ISO/ 味を理解する。 ISO/ 味を理解する。 ISO/ 味を理解する。 ISO/ 味を理解する。 ISO/ 味を理解を理解を理解 の/IEC27001附 ク管理策を理解 の/IEC27001附 ク管理策を理解	こと.  デラ技術者の立場に置かれたときの D事を想定して,前向きに受講して		
授業の属 フクテ 授業計画	三ィブラーニ	【本行い 区分 上グ 週 1週 3週 4週 5週 6月 7月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月	の注意】 , 情報システムを構築する技術者では 計する科目である. 卒業後に情報シス たい.  □ ICT 利用  授業内容  ガイダンス 情報セキュリティマネジメントシスラ  ISO/IEC 27001 と関連規格、法制度 , 用語の構成  情報セキュリティ機関  管理策I  管理策II  管理策III	はく, 運用管理や利所 テムを運用する立場(	Tabyポートを行こ置かれたときで ごとの到達目標 報とも一点を理解 報とも一点を理解 がある。 ISO/ 味を理解する。 ISO/ 味を理解する。 ISO/ 味を理解する。 ISO/ 中の情報とキ の/IEC27001附 ク管理策を理解 の/IEC27001附 ク管理策を理解 の/IEC27001附 ク管理策を理解 の/IEC27001附 ク管理策を理解 の/IEC27001附 ク管理策を理解	こと.  デラ技術者の立場に置かれたときの D事を想定して,前向きに受講して		

		1						情報セキュリティ(	カリスクに	ついて分	エニア カンボー カンボール カンド・カンド かんしゅう かんしゅ かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅ しゅ かんしゅ しゅ しゅ しゅ しゅ しゅ しゅ しゅ しゅう しゅ	対策を理解
		10ì	10週 リス		Jスク対応I		情報セキュリティのリスクについて分類と対策を理解する.					
		11ì	<u></u>	リスク	Jスク対応II			情報セキュリティのリスクについて分類と対策を理解する.				
		12ì	2週 導		<b>享入支援</b>			ISMS を適用予定の組織への物的,人的支援について評価法を理解する.				
		13ì	3週 ISN		MS 運用検討			ISMS を運用するにあたっての計画,管理法などを理解する.				
		14週		ISMS パフォーマンス評価			t t	ISMS を実施するにあたっての評価法を理解する.				
15週 IS			ISMS	MS 改善			ISMS の短期的,長期的な改善方法について理解する					
		16ì										
モテルコフ <sub>分類</sub>	アカリ	キュ	ラ <u>ムの</u> 分野	学習	内容と到達 <sub>学習内容</sub>	<u>目標</u> 学習内容の到達目標	<u> </u>			到達レベ	` II '	<b>拉森</b> 油
刀秧						説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動			1	VV	1又未贮	
						に関する基本的な責任事項を説明できる。 現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に 関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を						
					1 -	説明できる。 技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。				3		
						社会における技術者	首の役割と責任を記	说明できる。		3		
						情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。			著作権な	4		
					[	高度情報通信ネット との関わりを説明で	マラーク社会の中格	<b>亥にある情報通信技</b>	術と倫理	4		
					技術者倫理	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技			3			
						術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。 環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説			 は何かを説	3		
						明できる。			3			
						国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。			3			
			(知的財産、 法令順守、	守、	法令順守、	過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会 に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。			3			
	工学基礎		持続可能性 を含む)およ び技術史		持続可能性	知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。			3			
						知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。			3			
基礎的能力						技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。			4			
						技術者を目指す者と れぞれの国や地域に 握している。	こして、諸外国の5 こ適用される関係2	文化・慣習などを尊 法令を守ることの重	重し、そ 要性を把	4		
						全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。			3			
					-	技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然 資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでい くことの重要性を認識している。			進、自然 )組んでい	3		
					Ī	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任 を説明できる。			割や責任	3		
						科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。			展に寄与			
						した姿を通し、技術 情報伝達システムや				4		
						いる。 情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。			4			
			情報リテラ	テラ		個人情報とプライバシー保護の考え方についての基本的な配慮が						
					NAME	できる。 インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々			 ける様々			
						な脅威を認識している			4			
						インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。			4			
			D専 情報系分野		その他の学 習内容	コンピュータウィルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っ ている際に遭遇しうる代表的な脅威について説明できる。			4			
	V ====	<b>∥</b>				コンピュータを扱っている際に遭遇しうる脅威に対する対策例に ついて説明できる。				4		
専門的能力	分野別 門工学	リの特				基本的な暗号化技術について説明できる。			4			
						基本的なアクセス制御技術について説明できる。 マルウェアやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に			4			
						マルワェアやノイッシンクなど、コンピュータを扱っている際に 遭遇しうる代表的な脅威について説明できる。 4						
評価割合	=	 試験		発	<u> </u>	<b>坦方</b> 郭/燕	能使	#_ ト ¬ - ! ! -	=田月百		△≕	
総合評価割合		<u> </u>			1X	表     相互評価     態度       0     0		ポートフォリオ 課題 0 30			合計 100	
基礎的能力		30		0		0	0	0 10 40				
専門的能力 30		30				0	0	0	10		40	

() == 1+1    = (1 / 1 / 1 / 1		_	_	_	_		
分野横断的能力	10	[0	0	0	[0	10	20